

Marketing impact!



2027年5月期 第1四半期 決算補足資料

アウンコンサルティング株式会社

2026年10月14日

本資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら、現実には、通常予測しえないような特別事情の発生または、通常予測しえないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の業績見通しのみに全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。尚、いかなる目的であれ、当資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようお願いいたします。



ヤフー株式会社
パートナー



グーグル株式会社
正規代理店



バイドウ株式会社
基幹代理店

事業戦略

Business strategy

CONTENTS

01 - 事業戦略

02 - 決算概要

03 - 会社情報

04 - 上場維持基準への
適合に向けた計画

Vision2028

Marketing Impact!

マーケティングの力で日本を元気に！

事業 ドメイン

グローバル領域におけるマーケティング支援事業

使命

私たちは独創的な考え方で課題を解決し、
笑顔にあふれた社会作りに貢献します。



社名・ロゴの 由来

アウンコンサルティングの「アウン」は、「阿吽（あうん）の呼吸」に由来しています。「お客様第一主義」を経営スタイルの真ん中に置き、お客様に対し「阿吽の呼吸」で接していけるよう、精進していきたいと考えています。

ロゴのカラーである「青」は、コンサルティング会社に欠かせない「知性」の色とされています。またシンボルマークの「犬」は「盲導犬」を意味します。創業時、日本で盲導犬が不足していることを知り、社会に貢献のできる立派な会社になることを願ってデザインに取り入れました。

当社のコア・コンピタンスは、創業以来培ったマーケティング技術
この技術を活かし、既存事業の成長に加え、新規事業開発、営業活動、生産性向上を推進

基幹技術

デジタルマーケティング
SEO、広告、SNS、AI、アフィリエイトなど

事業領域

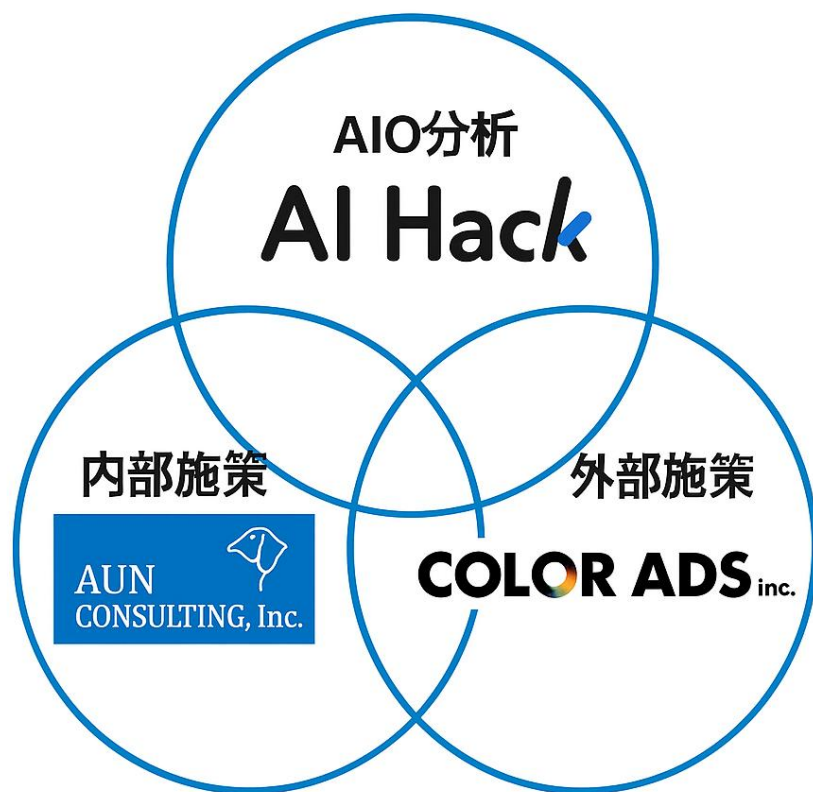
グローバルマーケティング
(国内、アウトバウンド、インバウンド、レジデント)
メディアマーケティング
(損害保険、今後M&Aで取得)

人材採用

地方 × IT
フルリモートワーク × スーパーフレックス



生成AI時代の新たな戦略 アウンコンサルティング × AI Hack × COLOR ADS



AI Hack

主要な生成AI・AI検索サービスにおける企業・ブランド・商品情報の掲載状況や引用傾向を多角的に診断・可視化

COLOR ADS

アフィリエイトASP「CANVAS」を活用し
AIが参照する外部情報源の最適化

アウンコンサルティング

SEO/コンテンツ最適化の知見を基礎に
AIが理解・引用しやすい情報構造への改善

AIOで培った「AIが理解・参照しやすい情報設計」の知見を横展開

採用・人事領域（AIO for HR）とIR領域（AIO for IR）へサービスを拡充

基盤：AIOで培った知見

- 1 AI回答での言及・引用状況を
診断・可視化
(AI Hack)
- 2 AIが理解・引用しやすい
情報構造へ改善
(当社 SEO／コンテンツ)
- 3 AIが参照する
外部情報源を最適化
(COLOR ADS)



AIO for HR

採用・人事領域 2026年9月17日 発表

対象情報

採用サイト・求人情報・人的資本情報等

情報の受け手

生成AIで企業を比較する求職者

提供価値

求職者の企業理解を深め、母集団形成を支援

AIO for IR

IR向け広報領域 2026年9月29日 発表

対象情報

IRサイト・決算・成長戦略等

情報の受け手

生成AIで企業を調べる投資家・アナリスト

提供価値

AIの誤要約リスクを抑え、投資家の理解を促進

共通メニュー 料金プラン

AIプロンプト設計／サイト内外の改善提案／AI回答の言及・引用分析／多言語対応
リサーチ（可視化）とコンサルティング（改善提案）の2プラン

AI導入支援 AIシフト

世界の業界特化型AIを調査・評価し、導入から現場への定着まで一貫支援するストック型サービス

2026年9月10日 提供開始／第一弾は不動産仲介業向け、今後は建設・物流・製造・医療等へ順次拡大予定

決算概要

Financial summary

CONTENTS

01 - 事業戦略

02 - 決算概要

03 - 会社情報

04 - 上場維持基準への
適合に向けた計画

決算概要＞ハイライト

- 営業赤字が前年同期比で縮小。収益構造の見直しにより、営業損益が改善。
- AIOの新規契約件数は拡大。採用・人事領域（AIO for HR）とIR領域（AIO for IR）にもサービスを拡充。
- 「上場維持基準への適合に向けた計画」に基づき、新サービスの収益化と既存事業の収益性改善を両輪で推進し、早期の黒字化と業績回復を目指す。

売上高	売上総利益	営業利益	親会社に帰属する 当期純利益
43百万円	36百万円	▲15百万円	▲16百万円
対前年同期比	対前年同期比	前年同期	前年同期
▲13.2%	▲12.9%	▲23百万円	▲23百万円
増減額	増減額	増減額	増減額
▲6百万円	▲5百万円	7百万円	7百万円

決算概要＞ 損益計算書

	実績	前年同期比		
	2027年5月期1Q (連結累計)	2026年5月期1Q (連結累計)	増減額	増減率
売上高	43	49	▲ 6	▲ 13.2%
売上総利益	36	42	▲ 5	▲ 12.9%
売上総利益率 (%)	84.9%	84.6%	-	-
販管費	51	65	▲ 13	▲ 20.2%
販管費率 (%)	120.4%	131.0%	-	-
EBITDA	▲ 14	▲ 22	7	-
営業利益	▲ 15	▲ 23	7	-
経常利益	▲ 16	▲ 23	6	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲ 16	▲ 23	7	-
EPS (円)	▲ 2.24	▲ 3.18	0.94	-

(百万円)

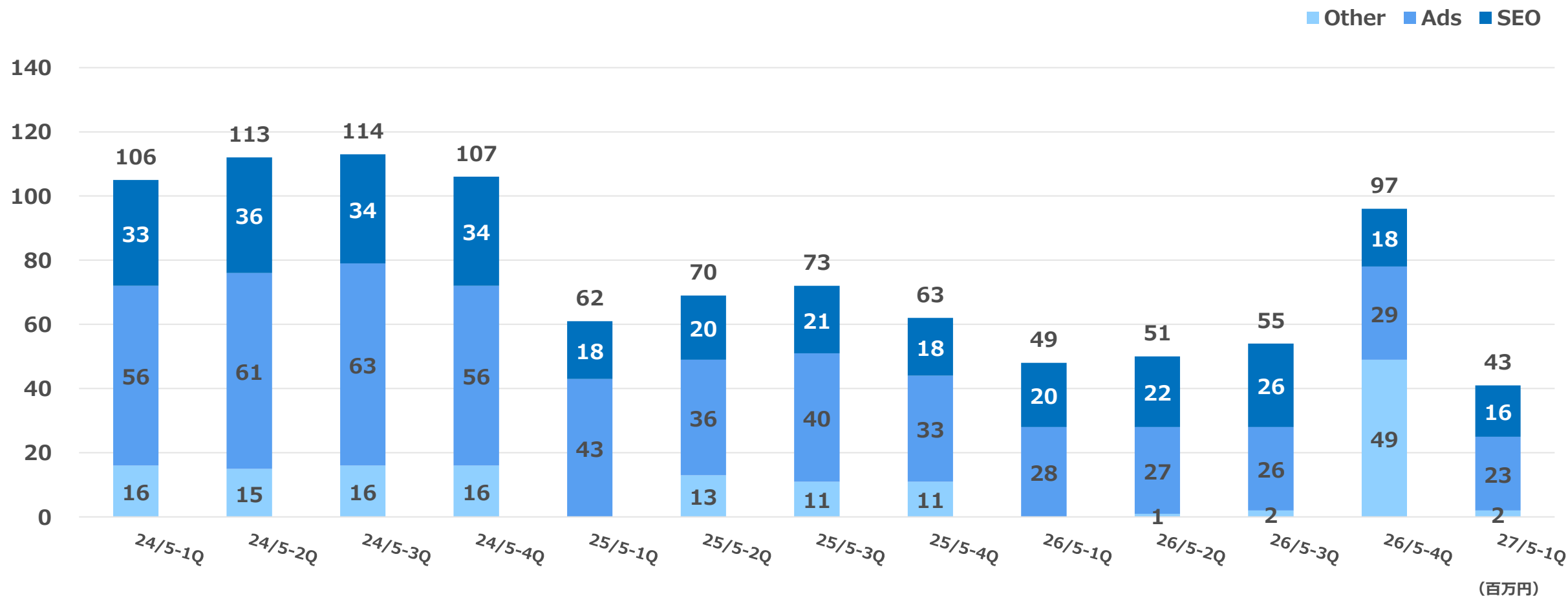
決算概要＞貸借対照表

	実績	前期末比		
	2027年5月期1Q	2026年5月期	増減額	増減率
流動資産	534	591	▲ 56	▲ 9.5%
▪ 現預金	391	421	▲ 30	▲ 7.2%
固定資産	77	77	▲ 0	▲ 0.9%
▪ 有形固定資産	-	-	-	-
▪ 無形固定資産	14	15	▲ 0	▲ 4.1%
▪ 投資その他の資産	62	62	▲ 0	▲ 0.1%
総資産	612	668	▲ 56	▲ 8.5%
▪ 流動負債	127	162	▲ 35	▲ 21.9%
▪ 固定負債	192	198	▲ 5	▲ 2.8%
負債合計	320	361	▲ 41	▲ 11.4%
純資産	291	307	▲ 15	▲ 5.1%

(百万円)

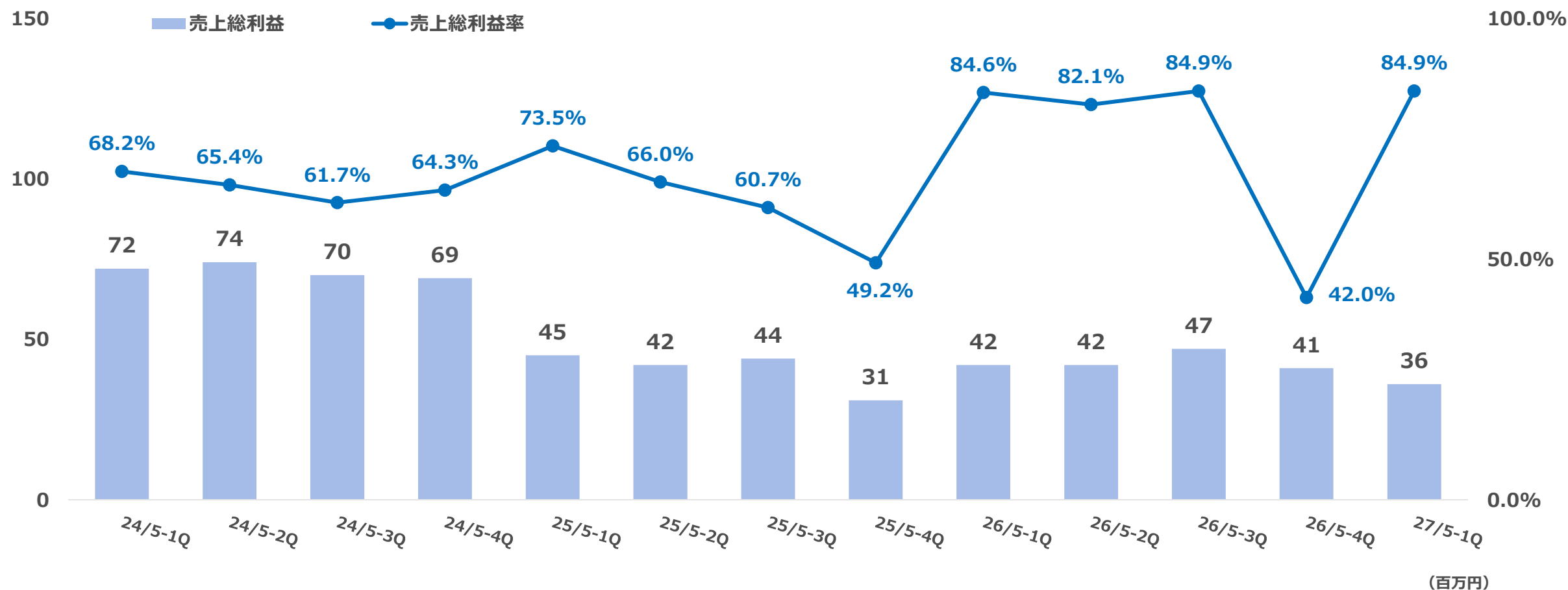
決算概要＞ 四半期／売上高

- 26/5-4QのOther売上は、販売用不動産の売却に伴う一過性の収益を含む。
その他の販売用不動産についても、早期の売却を進めていく方針である。

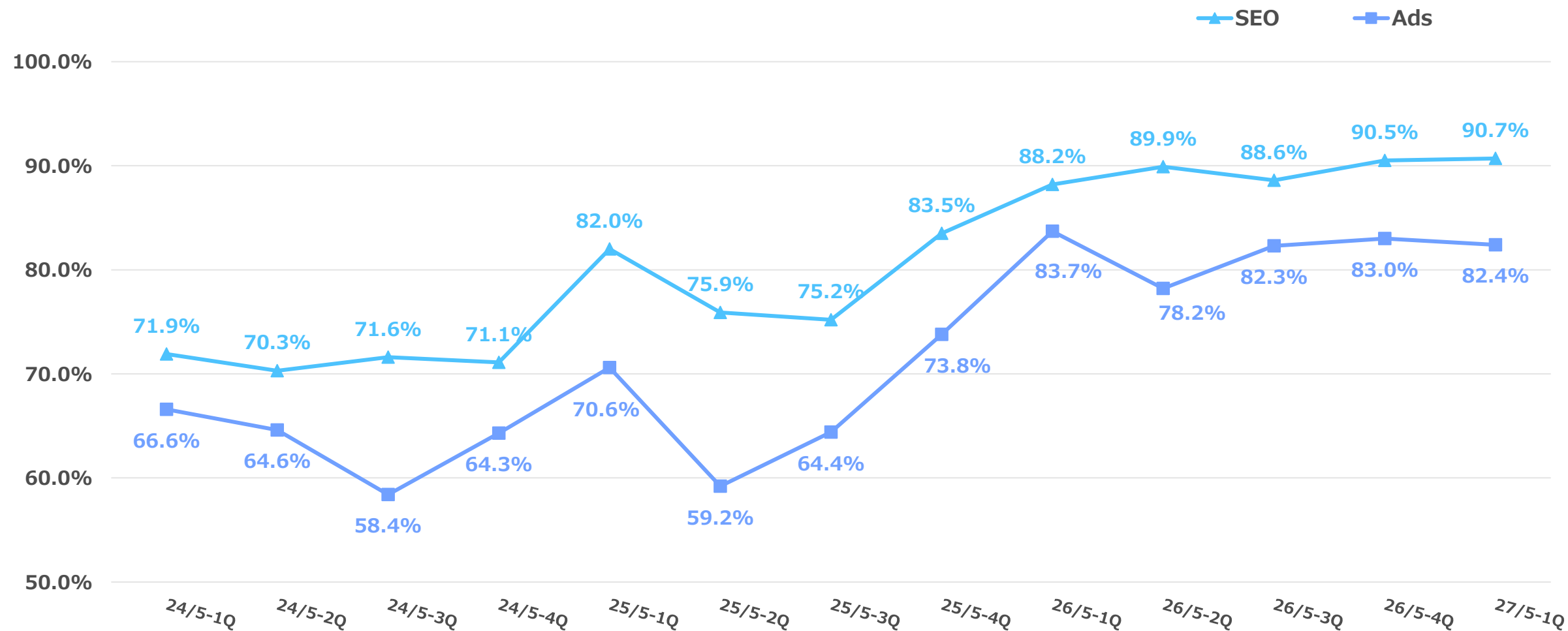


決算概要＞ 四半期／売上総利益

- 26/5-4Qの売上総利益率は、販売用不動産の売却に伴う仕入・商品評価損戻入益・商品評価損の計上といった一時的な要因により低下したが、27/5-1Qは回復。

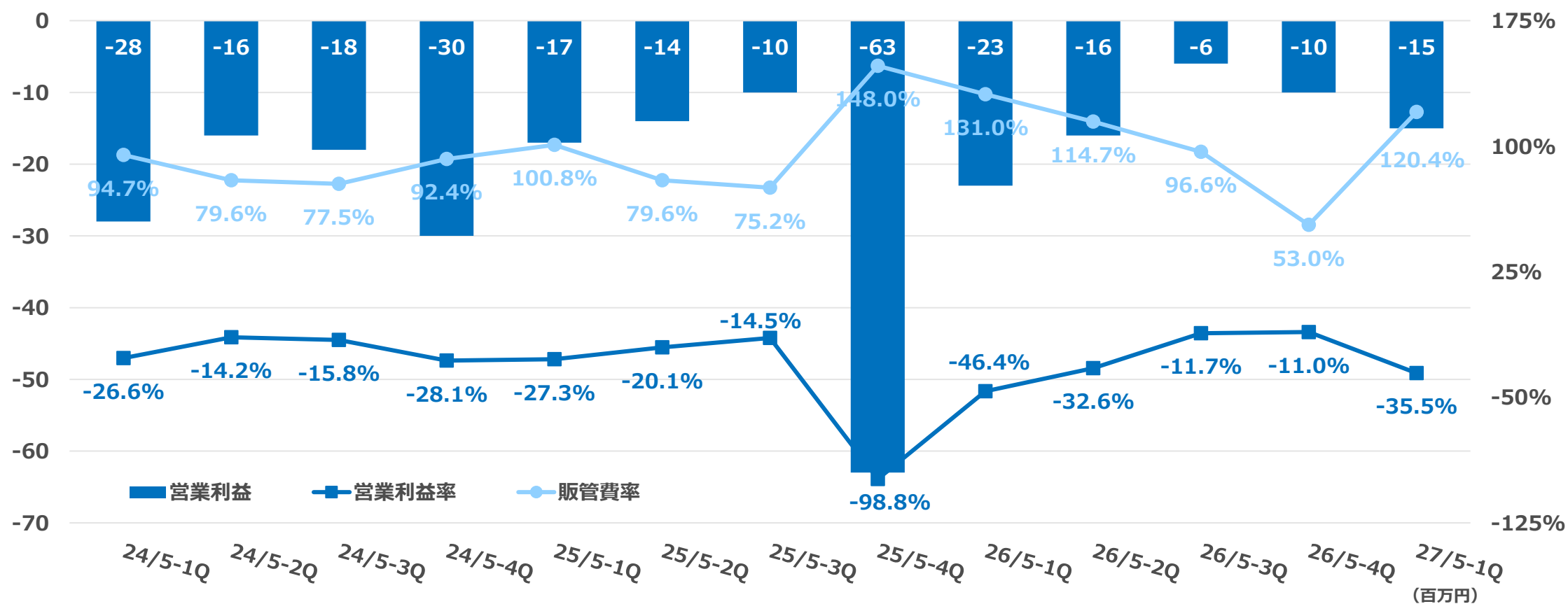


決算概要＞ 四半期／売上総利益率



決算概要＞ 四半期／営業利益

- 前年同期（前期1Q）と比較し、営業赤字が縮小。
- 販管費を前年同期比20.2%削減し、営業損失は前年同期の23百万円から15百万円に改善。



会社情報

Corporate Data

CONTENTS

01 - 事業戦略

02 - 決算概要

03 - 会社情報

04 - 上場維持基準への
適合に向けた計画

- 社名 アウンコンサルティング株式会社
- 設立 1998年6月8日
- 資本金 1億円
- 上場 東京証券取引所スタンダード市場(証券コード: 2459)
- 所在地 東京都千代田区丸の内2丁目2番1号 岸本ビルヂング 6F
- 連絡先 0570-05-2459(大代表)
- 代表者 代表取締役CEO 信太 明
- 人員数 29名（正社員のみ20名）2026年8月末現在
- 認証/認定 えるぼし（女性活躍、2018年）、おもてなし（見える化、2018年）
くるみん（子育て、2019年）、ともにん（介護、2024年）
みらワカ（働き方、2024年）、GPTW（働きがい、2026年）
- 受賞/選定 厚生労働省「輝くテレワーク賞」の特別奨励賞を受賞
総務省「テレワークトッパー2025」に選定



2018年、アジアを中心に高級ビーチリゾート・不動産開発事業を展開するTanzanite社へ出資
ベトナム・ホーチミン近郊でのフルサービス型の高級ビーチリゾート開発は
今後の経済成長やロンタイン国際空港の開港によりさらなる発展が期待される



※THE HAMPTONS HO TRAMホームページより

ベトナム 経済成長

- 人口：1億人を突破 ※国連人口基金「世界人口白書2025」
- 名目GDP：2026年にもタイを上回る可能性
※国際通貨基金「世界経済見通し」

国際空港の 開港

- ロンタイン国際空港：2026年9月に商業運用を本格化する計画
- 南部全域に地価上昇やインフラ投資、関連産業の発展が波及していく可能性
- 空港を中心とした新しい都市圏の形成が期待

会社情報＞取引実績

金融



製造



情報通信



不動産



小売・物流



医療・福祉



教育・その他



生活サービス



会社情報＞リリース（1）

日付	タイトル
2026/07/14	<u>AIツールの利用状況と検索における利用実態調査</u>
2026/07/22	<u>ChatGPT広告7カ国を対象に運用支援を開始</u>
2026/07/23	<u>世界40カ国・地域におけるスマートフォンのOS・機種シェア調査【2026年7月版】</u>
2026/07/28	<u>事例インタビュー（ペルノ・リカール・ジャパン株式会社様）</u>
2026/07/30	<u>日本の世界遺産検索ランキング【小笠原諸島】</u>
2026/08/06	<u>「AIと話す」「AIでつくる」検索に見るAIの使い方～世界40カ国の検索トレンドに見るAI市場動向～</u>
2026/08/17	<u>中国市場向けAIOサービスを展開～ジェネラルトレーディングと業務提携～</u>
2026/08/20	<u>48カ国・地域で“伝わる”広告表現にネイティブ対応 ～現地の特性に合わせ、Google・Meta・Microsoft・LinkedIn広告向け静止画クリエイティブの企画・制作を支援～</u>
2026/08/27	<u>日本の世界遺産検索ランキング【古都京都】</u>

会社情報＞リリース（2）

日付	タイトル
2026/08/28	<u>AI時代の災害対策、検索データから見る情報ニーズの変化～損害保険申請サポート「ミエルモ」～</u>
2026/09/10	<u>業界特化型AI導入支援「AIシフト(ストックモデル)」を提供開始</u>
2026/09/11	<u>AI時代の検索データから見る、世界39カ国・地域の「日本」への関心</u>
2026/09/16	<u>AI時代の台風・大雨対策、検索データから見る住まいの本当の不安～損害保険申請サポート「ミエルモ」～</u>
2026/09/17	<u>AI採用広報支援の新サービス「AIO for HR」提供開始</u>
2026/09/29	<u>AI最適化のIR活動支援新サービス「AIO for IR」提供開始</u>
2026/09/30	<u>日本の世界遺産検索ランキング【富岡製糸場と絹産業遺産群】</u>
2026/10/07	<u>損害保険申請サポート「ミエルモ」譲受から1年 ～デジタルマーケティングを活用し、住まいの課題解決とサービス価値向上を推進～</u>
2026/10/08	<u>AI検索は「サービス名」から「動画・生成」まで多様化～世界40カ国・地域の検索トレンドに見るAI市場動向～</u>

上場維持基準への 適合に向けた計画

Plan to Maintain Listing

CONTENTS

- 01 - 事業戦略
- 02 - 決算概要
- 03 - 会社情報
- 04 - 上場維持基準への
適合に向けた計画

引き続き東京証券取引所スタンダード市場での上場を堅持し
持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指す

収益力及び成長力の向上

AIO関連サービス等の新サービスの収益化と既存事業の収益性改善により
持続的な成長を業績として示す

経営基盤の強化

案件ごとの採算管理、全社的なコスト管理、資本業務提携の活用により
安定的に利益を創出できる経営基盤を確立する

資本市場との対話強化

定量情報を交えた継続的な発信と建設的な対話を通じて
企業価値への信頼及び評価を高める

課題＞ 流通株式時価総額の構造と要因

流通株式時価総額は「時価総額（株価）」と「流通株式比率」に分解でき、収益性の低下に伴う株価低迷が主因である
IR発信の一層の充実に加え、流動性向上の観点から株主構成の最適化も継続的に検討すべき課題と認識

流通株式時価総額
基準：10億円以上

=

時価総額（株価）
収益性・成長期待を反映

×

流通株式比率
48.8%（2026年5月末）

現状：不適合

流通株式時価総額は7.5億円で
基準（10億円以上）に未達

主な要因

収益性の低下に伴う株価低迷
持続的な成長性を実績として示す必要

適合

株主数・流通株式数・流通株式比率は
いずれも上場維持基準を充足
一方、流動性向上の観点から株主構成
の最適化を継続検討

取組①～⑤＞全体像

改善期間を企業価値向上に向けた変革の期間と位置付け、
5つの取組を一体的に推進し、全社一丸となって改善期間内の上場維持基準への適合を目指す

1

新サービスの収益化
成長領域への展開

AIO関連サービス等の成長領域と
「ミエルモ」の収益化を推進

2

既存事業の収益性
改善・経営基盤の強化

提案力・採算管理・営業効率化を
高め、安定的な利益創出を目指す

3

資本業務提携
アライアンスの推進

親和性と相乗効果が見込まれる
企業との提携を積極的に推進

4

IR活動・資本市場との
対話の強化

事業戦略や進捗を継続的に発信し、
建設的な対話を強化する

5

ガバナンス・経営管理
体制の充実

監督機能・リスク管理・コンプライアンス
体制を充実させる

まとめ＞ 上場維持基準への適合に向けて

5つの取組を着実かつ迅速に実行し、収益性及び成長性を高めるとともに資本市場からの信頼及び評価の向上を図り、改善期間内の上場維持基準（流通株式時価総額）への適合を目指す

現状

7.5億円

流通株式時価総額（不適合）

上場維持基準

10億円以上

流通株式時価総額

改善期限

2027年5月末

改善期間内の適合を目指す

持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現し
東京証券取引所スタンダード市場での上場維持につなげていく